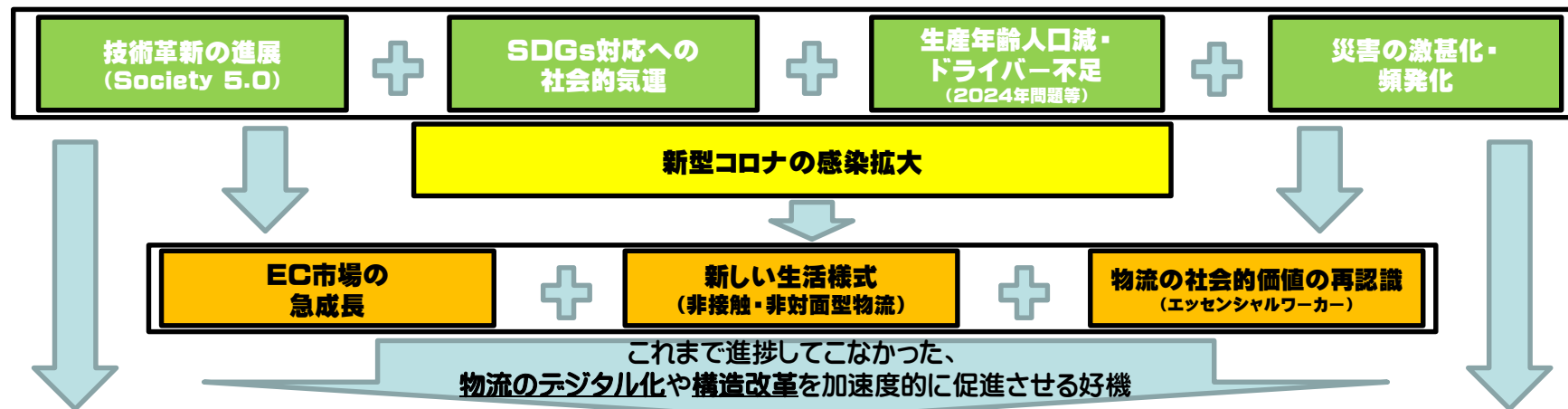


官民物流標準化懇談会 パレット標準化推進分科会について

令和3年9月30日（木）

国土交通省 総合政策局 物流政策課

総合物流施策大綱(2021年度～2025年度)概要



新型コロナ流行による社会の劇的な変化もあいまって、我が国の物流が直面する課題は先鋭化・鮮明化

①物流DXや物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化 (簡素で滑らかな物流)

- (1) 物流デジタル化の強力な推進
- (2) 労働力不足や非接触・非対面型の物流に資する自動化・機械化の取組の推進
- (3) 物流標準化の取組の加速
- (4) 物流・商流データ基盤等
- (5) 高度物流人材の育成・確保

②労働力不足対策と物流構造改革の推進 (担い手にやさしい物流)

- (1) トラックドライバーの時間外労働の上限規制を遵守するために必要な労働環境の整備
- (2) 内航海運の安定的輸送の確保に向けた取組の推進
- (3) 労働生産性の改善に向けた革新的な取組の推進
- (4) 農林水産物・食品等の流通合理化
- (5) 過疎地域におけるラストワンマイル配送の持続可能性の確保
- (6) 新たな労働力の確保に向けた対策
- (7) 物流に関する広報の強化

③強靱で持続可能な物流ネットワークの構築 (強くてしなやかな物流)

- (1) 感染症や大規模災害等有事においても機能する、強靱で持続可能な物流ネットワークの構築
- (2) 我が国産業の国際競争力や持続可能な成長に資する物流ネットワークの構築
- (3) 地球環境の持続可能性を確保するための物流ネットワークの構築 (カーボンニュートラルの実現等)

総合物流施策大綱(2021年度～2025年度)における標準化に関する記載①～②

「物流DXや物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化（簡素で滑らかな物流の実現）」⇒「（３）物流標準化の取組の加速」より抜粋

段落	内容
① モノ・データ・業務プロセス等の標準化の推進と社会課題としての発信	物流を構成する各種要素が標準化されることで、物流現場の作業が簡素化することはもちろん、自動化機器の導入による省人化が促され、人手不足の中でも物流の機能と高度なサービスの維持が可能となる。 <u>標準化を進めるためには、物流に関わる全てのステークホルダーが、各種要素の非統一に起因して発生する物流現場の負担を明確に認識し、その改善に向け、ユニットロードやEDIの仕様などをはじめとして、モノ・データ・輸配送条件を含む業務プロセスの標準化に連携して取り組むことが必要である。</u> このため、物流標準化を真に効率的で持続可能な物流への転換のための社会全体の課題として捉え、その必要性を一般消費者含め広く、強く発信していく。
② 加工食品分野における標準化・商慣習改革のための推進体制の整備と周辺分野への展開	加工食品分野においては、2020年3月、官民連携の協議会が物流標準化のアクションプランを策定し、納品伝票、外装表示、パレット・外装サイズ、コード体系・物流用語の4項目における標準化の必要性を確認するとともに、推進の方向性を取りまとめたところである。現在、このアクションプランの実現に向けて、伝票の標準化・電子化の動きや、外装サイズ標準化のためのガイドライン策定を目指す民間主体の協議会の開催等の取組が進んでいる。<u>これらの取組がサプライチェーン全体の動きに発展し、物流標準化推進の一つのプロトタイプとなるよう、引き続き官民連携して不断に推進していく。</u> この物流標準化の推進に際しては、附帯作業や荷待ち時間の削減、リードタイムの延長、環境負荷要因ともなる荷受け時の過度な外装不良基準の緩和等の商慣習についても一体的に解消し、標準化による効果が物流の現場に帰することを旨として、川上から川下までの幅広い関係者と行政が参画する体制を構築する。 <u>加工食品分野での標準化をフォローアップする過程では、取り扱う製品・商品の特性や商慣習に近い他の業種分野に向けてもこの動きを周知し、取組の横展開や連携を図る。</u>

総合物流施策大綱(2021年度～2025年度)における標準化に関する記載③～④

「物流DXや物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化（簡素で滑らかな物流の実現）」⇒「（３）物流標準化の取組の加速」より抜粋

段落	内容
③ 業種分野ごとの物流の標準化の推進	物流業界においては既に個社や一部業界内で標準化の取組も行われているが、業種分野によって危機感や進捗状況は大きく異なる。特に、<u>国民生活の安定と我が国のレジリエンス強化の観点から、加工食品を始め、日常生活や健康・安全に直接に関係する物資に係る物流に関しては、標準化を含む物流課題の明確化と、関係者間での連携による認識の共有と解決に向けた対話を促進する。</u>その際、物量の波動対応や重量物の手荷役作業といった物流の担い手の大きな負担となっている作業の軽減など、業種分野ごとに存在する個別の課題についても取り扱う。
④ 国際化やデジタル化を視野に入れた標準化の推進	<u>物流標準化の推進に際しては、物流の国際化やデジタル化の動きを踏まえて取り組むことが必要である。</u>例えば、事業所コードやEDI標準等については、GS1やUN/CEFACTの規格が国際的な標準として機能していることも踏まえた取組を推進する。パレットの規格については、将来的な国際一貫パレチゼーションの実現に向け、国内外の状況を注視しつつ、中・長期的な取組の方向について関係者の合意形成を図る。

物流における標準化

施策の背景・経緯

- 少子高齢化をはじめ、社会構造が変化していく中において、我が国の競争力を強化し持続的な成長を図るためには、経済活動と国民生活を支える社会インフラたる物流の生産性向上と、その機能の発揮が必要不可欠。特に、物流の効率化に向けた荷主・物流事業者等の関係者の連携・協働を円滑化するための環境整備として、共同化・自動化・データ化等の前提となるソフト面及びハード面の標準化が必要。
- 上記の問題意識から、令和元年度、物流効率化に向け意欲的な取組が進められ改善の幅が顕著である加工食品分野における物流標準化について議論を進め、アクションプランをとりまとめたところ（令和2年3月）。
- この加工食品分野におけるアクションプランの実現に向けて、官民ともに取り組むとともに、進捗をフォローアップし、他分野への情報共有や横展開を図るため、フォローアップ会を実施したところ（令和3年6月）。
- また、産学官連携の下、長期的視点で物流標準化の課題や推進方策を議論・検討するため「官民物流標準化懇談会」を設置・開催（令和3年6月）。第1回懇談会において、懇談会の下に個別の標準化テーマごとの分科会を設けること、具体的には、まずは先行的に物流機器（パレット等）の標準化について検討する分科会を設けることとなり、令和3年9月に第1回「パレット標準化推進分科会」を開催した。

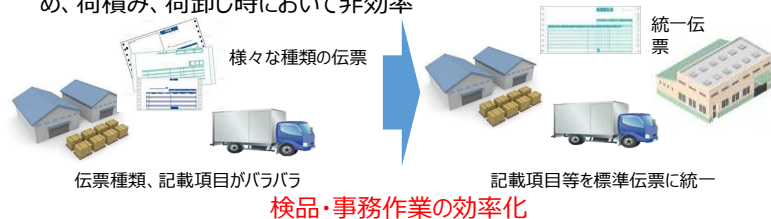
今後の予定

- 引き続き加工食品及びそれ以外の各分野における課題を整理し、業種分野ごとの標準化の取組を推進していくとともに、サプライチェーン上の様々な事業者の参画を得つつ、官民協働して、業界及び業種横断的な物流標準化に向けた検討を進める。

ソフト面（データ・システム仕様）、ハード面（パレット等の資機材）における標準化項目・事例

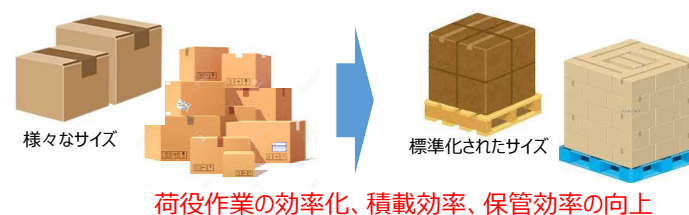
伝票の標準化

- 荷主等の事業者ごとに伝票がバラバラであり、記載項目も異なるため、荷積み、荷卸し時において非効率



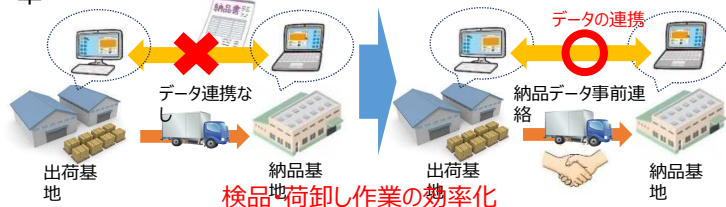
外装の標準化

- 様々な商品サイズ・形状により、パレット等への積載効率が低下するなど非効率



受け渡しデータの標準化

- 物流事業者と着荷主の間などで商品データが標準化された仕様で共有されていないことから納品時の賞味期限確認等の検品において非効率



パレットの標準化

- 様々なパレットサイズにより、積替え作業の発生や積載効率が低下するなど非効率



- 5

概要

令和3年6月15日に閣議決定された新しい総合物流施策大綱では、取り組むべき大きな柱のひとつとして「物流DXや物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化（簡素で滑らかな物流の実現）」を提言。

物流DXの推進のためには、その大前提として、物流を構成するソフト・ハードの各種要素の標準化が必要不可欠。長年の課題であった物流標準化を実現するため、長期的視点でその課題や推進方策を議論・検討するため「官民物流標準化懇談会」を設置・開催。

●対象となる議題・テーマ

ハード・ソフト含むすべての物流各項目

●第1回 官民物流標準化懇談会 (令和3年6月17日)

- ・物流標準化の重要性や意義、検討すべき課題や、議論にあたって留意すべき観点等について確認。
- ・懇談会の下に個別の標準化テーマごとの分科会を設け、専門家の意見等も聞きながら標準化の方策について検討を進めていくことを決定。
- ・具体的には、まずは先行的に物流機器（パレット等）の標準化について検討する分科会の設置・開催を決定。

●第1回 パレット標準化推進分科会 (令和3年9月7日)

- ・第1回懇談会での議論を受けて、懇談会の下に設置・開催（4か月に1回程度の頻度で開催予定。）

●今後の予定

同懇談会は年1～2回の開催予定。
個別のテーマは分科会にて議論。

「官民物流標準化懇談会」構成員（五十音順、敬称略）

荒木 毅	日本商工会議所 社会資本整備専門委員会委員長 (富良野商工会議所会頭)
荒木 秀夫	S Gホールディングス株式会社 代表取締役社長
栗島 聡	公益社団法人経済同友会 幹事
内田 富雄	一般財団法人日本規格協会 業務執行理事
金子 千久	全国農業協同組合連合会 参事
神宮司 孝	株式会社日立物流 代表執行役副社長
高岡 美佳	立教大学経営学部 教授
長尾 裕	ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役社長 社長執行役員
根本 勝則	一般社団法人日本経済団体連合会 専務理事
根本 敏則	敬愛大学経済学部 教授
橋爪 茂久	公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 専務理事
二村 真理子	東京女子大学現代教養学部 教授
堀切 智	日本通運株式会社 代表取締役副社長
馬渡 雅敏	公益社団法人全日本トラック協会 副会長
味水 佑毅	流通経済大学流通情報学部 教授
米田 浩	一般社団法人日本倉庫協会 理事長
渡邊 健二	一般社団法人日本物流団体連合会 会長
太田 豊彦	農林水産省 食料産業局長
畠山 陽二郎	経済産業省 商務・サービスグループ審議官
久保田 雅晴	国土交通省 総合政策局 公共交通・物流政策審議官
桜川 直也	国土交通省 自動車局長

※名簿は令和3年6月17日時点

総合物流施策大綱

物流にかかる規格の標準化

官民物流標準化懇談会

議題 : ハード・ソフト含むすべての物流各項目（パレット・外装サイズ、外装表示、納品伝票、コード体系・物流用語等）の規格にかかる標準化

進め方 : 特定の標準化項目（例：パレット規格等）を取り上げて、順次、実行に結び付く標準化の方向性（標準規格／民間・行政での具体的な推進手法等）につき議論・検討。詳細の検討にあたっては懇談会（年1～2回）の下に分科会を設置する等で対応。

構成員 : 行政、物流団体、主要物流事業者、学識経験者、経済団体、荷主系団体等

日本物流団体
連合会

経営効率化
委員会

物流標準化の
推進に向けた
調査小委員会

連携
協力

検討結果の業界への共有

検討結果の業界への共有

先例としての知見の提供

先例としての知見の提供

【ソフトの標準化】

◆SIPスマート物流 サービス

・物流・商流データ基
盤を活用したデータ連
携・標準化による物流
効率化

基盤の利活用を通じた
物流情報の標準化

先例としての
知見の提供

業種分野ごとの 物流標準化の取組

・ハード・ソフト含むすべての物流各項目
（パレット・外装サイズ、外装表示、納品伝票、
コード体系・物流用語等）の規格にかかる標準化

加工食品分野における物流標準化 アクションプラン（フォローアップ会）

青果物分野における物流標準化の取組 （青果物流通標準化検討会）

〇〇分野における
物流標準化取組

標準化による
更なる生産性向上
・労働時間改善

商慣習等見直し
による標準化推進

トラックドライバーの 働き方改革

- ◆ホワイト物流推進運動
- ◆標準貨物自動車運送約款等
の改正 等

業種分野ごとの 生産性向上及びトラック ドライバーの労働時間 改善に関する懇談会

- ・受発注条件の見直し
- ・荷待ち時間の削減
- ・荷役時間の削減
- ・附帯作業時間の削減 等

加工食品物流における 生産性向上及びトラック ドライバーの労働時間 改善に関する懇談会

酒・飲料

建設資材物流に おける・・・懇談会

紙・パルプ物流に おける・・・懇談会

1. 分科会における検討課題と進め方

<第1段階：実態把握・方針検討>

① 実態調査…国内外のパレット標準化推進状況や課題、過去の 取組事例等の把握が必要。

② 検討対象パレット…パレット（平パレット／ロールボックスパレット／シートパレット等）のうち優先順位を付けて進めることが必要。

③ パレットサイズ・仕様にかかる標準化方針検討…標準規格は具体的にはどのような規格であるべきか検討が必要。

④ パレットの運用方法にかかる標準化方針検討

⑤ パレット標準化実証等

⑥ 上記を踏まえたサイズ・仕様や運用方法等の標準化にかかるとりまとめ

<第2段階：標準化推進方策検討>

⑦ 上記⑥においてとりまとめたパレット標準化の具体的推進方策のとりまとめ

3. 開催頻度等

分科会開催頻度… 1回／約4か月

2. 分科会構成員

「官民物流標準化懇談会 パレット標準化推進分科会」 構成員名簿 (五十音順、敬称略)

伊勢川 光	一般社団法人日本物流団体連合会 理事・事務局長
加納 尚美	一般社団法人日本パレット協会 会長
齋藤 弘憲	公益社団法人経済同友会 執行役
重松 康夫	一般財団法人日本規格協会 産業基盤系規格開発ユニット長
嶋崎 真理	一般社団法人日本倉庫協会 常務理事
高岡 美佳	立教大学経営学部 教授
高橋 啓	日本通運株式会社 ロジスティクスエンジニアリング戦略室長
田中 浩一	株式会社日立物流 ロジスティクスソリューション開発本部 ロジスティクステクノロジー部 部長
西井 茂	佐川急便株式会社 東京本社 輸送ネットワーク部 部長
畠山 和生	ヤマト運輸株式会社 輸送機能本部 輸送戦略企画部 部長
二村 真理子	東京女子大学現代教養学部 教授
北條 英	公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所 所長
牧田 信良	公益社団法人全日本トラック協会 常任理事
味水 佑毅	流通経済大学流通情報学部 教授
宮澤 伸	日本商工会議所 地域振興部 部長
室賀 利一	株式会社日通総合研究所 シニアコンサルタント
森山 義英	全国農業協同組合連合会 経営企画部 次長
脇坂 大介	一般社団法人日本経済団体連合会 産業政策本部 主幹

<行政>

武田 裕紀	農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 食品流通課 課長
中野 剛志	経済産業省 商務・サービスグループ 物流企画室 室長
高田 公生	国土交通省 総合政策局 物流政策課
日野 祥英	国土交通省 自動車局 貨物課 課長

パレット標準化にかかる調査事項(案)

※第1回パレット標準化推進分科会 資料4

- アンケート・ヒアリング・デスクトップにより下記項目の調査を実施し、本分科会での議論における基礎情報とする。
- 「Ⅰ.実態把握」および「Ⅲ.必要性・方向性、効果・コストの試算」については、物流事業者側⇒物流連（小委員会）、荷主事業者側⇒国交省の分担にて調査を実施し、それぞれの結果を本分科会に随時持ち寄ることとする。

調査事項（案）		主な調査方法
Ⅰ.実態把握		
(1) パレットの利用実態（業種別）		
・パレット化率／パレットサイズ・スペック／保有パレット数量／レンタルパレット化率 等 ・トラック荷台、倉庫（特に自動倉庫）とパレット規格の関係性		アンケート ヒアリング
(2) パレット化が進まない／パレットサイズが異なることによる問題点		
・荷物の手積み手降ろしの発生／パレット間の積み替え作業の発生／（無駄な）作業発生による肉体的負荷の発生・長時間労働の要因／生産性の低下 等		アンケート
(3) パレット化が進まない／パレットサイズが異なる理由		
・荷主の取引条件／発注ロット／問題意識の欠如 等		アンケート
Ⅱ.事例調査		
(4) 海外でのパレット事情		
・海外のパレット化率＆サイズ／ 海外のパレット標準化の背景及び推進体制（EPAL、豪州、韓国のスキームなど）		デスクトップ ヒアリング
(5) 標準化推進方策の事例		
・パレット以外を含む標準化推進方策の成功事例、失敗事例		デスクトップ ヒアリング
Ⅲ.必要性・方向性、効果・コストの試算		
(6) パレット標準化の必要性		
・社会的背景（物流の低生産性、SDGs、カーボンニュートラル等への対応）		アンケート
・国や業界団体の動き（総合物流施策大綱／Society5.0 等）		アンケート
(7) パレット標準化の方向性（荷主/物流事業者からの要望）		
・例えば、T11型、T12型、ビールパレットの3種に集約することで標準化を図る 等		アンケート ヒアリング
(8) パレット標準化による効果・コスト試算		
【効果】 物流/荷主事業者への直接的効果（労働環境改善、労働生産性・積載率・回転率の向上、省人化効果、企業評価等）／社会的効果（CO2削減、経済効果等） 【コスト試算】 パレットの買い換え、パレットの規格変更に伴うサプライチェーン上の設備投資コスト試算 等		ヒアリング
(9) パレット標準化に向けた今後の課題（まとめ）		

物流標準化調査小委員会の概要

1. 小委員会の目的

- 労働力不足が顕在化しており、これまでのようにモノが運べなくなることが懸念されている。
- 物流事業者にとって、デジタル技術の積極的な活用による生産性向上や労働環境の改善が急がれる一方、その前提となる物流標準化については個別最適化の域を出ず、まだ課題が多いものと推察される。
- そこで、当連合会は「官民物流標準化懇談会」と連携協力し、物流標準化を推進するべく「物流標準化調査小委員会」を設置し、物流事業者側における現状と課題について調査検討を行うこととした。

2. 小委員会メンバー構成（27名）

東京女子大学 二村真理子教授
（座長、官民物流標準化懇談会メンバー）

国土交通省 総合政策局物流政策課長、物流高度化推進官

物流連 経営効率化委員会より、トラック、鉄道、倉庫、レンタルパレットの各企業、および業界団体メンバーで構成。

3. 検討課題・範囲

物流標準化の優先順位として、パレット規格の標準化を最重要と位置づけ、“物流事業者側からみた”パレット標準化に向けた実態や必要性、課題、効果の見通しなどを調査する。

- （1）パレット利用実態
- （2）パレット化が進まない／パレットサイズの標準化が進まないことで生じる問題点
- （3）パレット化が進まない／パレットサイズ標準化が進まない理由
- （4）海外でのパレット事情
- （5）標準化推進方策の事例
- （6）パレット標準化の必要性
- （7）パレット標準化の方向性（物流事業者側からの要望）
- （8）パレット標準化による効果
- （9）パレット標準化に向けた今後の課題

4. 検討のスケジュール

2021年6月23日に第一回目の小委員会を開催。
今年度内に、今後3回程度の開催を予定。

物流拠点におけるパレット利用実態アンケート調査（8月16日～9月10日）

主な配布先

- 物流連（約60社）

5 拠点/社・・・小委員会メンバー
2～3 拠点/社・・・物流連会員
- 倉庫協会(110社)
地場・中小企業

具体的なアンケート設問

- もっとも取扱いの多い業種・品目
- サプライチェーン上での位置づけ（発荷主側 or 着荷主側）
- トラックサイズとバラ貨物率の関連性
- 所有 or レンタルパレット比率
- バラ貨物・パレット積替えにかかる作業時間（所要時間）、その理由
- バラ貨物・パレット積替え削減方策に関するご意見、その理由
- パレット標準化・統一化に関するご意見、その理由

アンケートで得られると思われるアウトプットデータ

- **定量的データの確保**
サプライチェーン上における拠点の実態把握
- **一貫パレが進まない拠点の明確化（ヒートマップ）**
→輸入品の起点は海上コンテナECは基本小ロット、どこまでを扱うべきか
- **産業別の論点の明確化**
→商品特性(容積・重量)・商慣習
- **サイズ以外の論点整理**
→運用ルール標準化/高さ/動態管理技術/自動倉庫/フォークリフト・トラック寸法等